

第 1 回 伊丹市総合計画審議会 議事概要

開催日時	令和元年 6 月 28 日（金）午前 10 時 00 分～12 時 00 分
開催場所	伊丹市役所議会棟 3 階 第 2 委員会室
出席者	加賀委員、芝野委員、直田委員、松尾委員、審良委員、川村委員、小林委員 坂本委員、徐委員、辻 委員、寺坂委員、中尾委員、西濱委員、宮脇委員 森委員、吉澤委員、渡瀬委員、上田委員、木村委員、嶋本委員、鈴木委員
欠席者	植木委員、榎木委員、吉村委員
事務局	総合政策部長・政策室長 他 3 名
傍聴者	3 名
議題(案件)	1. 委嘱状の交付 2. 市長挨拶 3. 会長及び副会長の選任 4. 諮問 5. 委員紹介・議事録の署名 6. 審議会の傍聴に関する取り扱い基準について 7. 議題 (1) 第 6 次伊丹市総合計画策定に向けた検討内容 (2) 第 5 次総合計画の課題評価分析・課題整理について 8. その他
資 料	資料① 伊丹市総合計画審議会について 資料② 第 6 次伊丹市総合計画に向けた検討内容 資料③— 1 伊丹市総合計画（第 5 次）の概要 資料③— 2 伊丹市総合計画（第 5 次）の総括 資料④ 伊丹市の現況（1. 人口・世帯等） 資料⑤ 市の施策の満足度と重要度 （市民意識調査・団体アンケート調査分析） 資料⑥ 全世帯アンケート調査結果 諮問書（写し） 伊丹市総合計画審議会委員名簿・配席図

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
	開会 ・録音、写真撮影の確認 ・資料確認 1 委嘱状の交付 (市長より代表者 1 名に交付) 2 市長挨拶 (市長より挨拶) 3 会長および副会長の選任 ・委員総数 24 名のうち 21 名が出席しており、本会議が成立していることを確認。 ・事務局案により、会長に加賀委員、副会長に松尾委員を選出。 (会長より挨拶) 4 諮問 (市長より会長に諮問) 5 委員紹介・議事録の署名 (委員と事務局職員の自己紹介) ・「伊丹市審議会等の会議の公開に関する指針」第 5 条第 1 項に基づき、会議録は会長で策定することとする。 ・審議会の会議録に署名人を名簿順で指名。(芝野委員と直田委員) 6 審議会の傍聴に関する取り扱いについて (事務局から、資料①伊丹市総合計画審議会傍聴要領案について説明) ・傍聴要領(案)について委員より了承。 7 議題 (1) 第 6 次伊丹市総合計画策定に向けた検討内容 (事務局から、資料②について説明)
会長	・ 6 ページで市民ワークショップの説明をいただいた。今まで 2 回実施されたとのことだが、どのような方々が参加されているのか。
事務局	・ 若い人から高齢の方まで幅広い世代の方に参加していただいている。また、日頃から自治会活動や市民活動に取り組んでおられる方も多い。
委員	・ 私は社会福祉協議会の会長として審議会に参加させていただいているが、そのような役割や立場を越えて、自由に意見を申し上げてよいのか。
事務局	・ 市民としての立場と、団体としての役割があると思う。基本的には両方の立

委員 事務局	場でお考えを述べていただいて構わない。 ・ 5 ページの総合計画審議会スケジュールに書かれている部会の割り振りはどのようにお考えか。 ・ 部会の具体的な内容については次回の審議会でご案内したい。 ・ 総合計画の大きな柱をお示しし、その柱ごとに分かれていただく。学識経験者の方は専門分野を考慮したい。団体推薦の委員については活動内容等から事務局案を提示させていただく。
委員	7 議題 (2) 第5次総合計画の課題評価分析・課題整理について (事務局から、資料③～⑥について説明)
事務局	・ 資料④について2点伺いたい。7 ページ、伊丹市の転入・転出は尼崎市が最も多くなっているが、理由をお聞きしたい。 ・ また、3 ページの地域分布について、人口増減の要因と、地域差がある理由をお聞きしたい。 ・ 20 歳代を見ると、尼崎市への転出超過となっている。それ以外の世代について、昨年度は伊丹市への転入超過になっている。若い世代は進学や就職で駅から近いワンルームマンションへ移り住み、結婚したり家族が増えたりした際に伊丹市へ転入していると思われる。 ・ また、関東圏に多く転出しており、就職や進学が影響していると思われるが、はっきりとした答えは分からない。 ・ 伊丹市の人口増はマンション建設の影響が大きく、新設のマンションの約半数の住民が市外からの転入となっている。
委員	・ 人口増減が最も関係しているのは、土地の地価ではないだろうか。例えば路線価、スーパーや病院といった生活利便施設の配置図と重ね合わせて、具体的な理由を推測していただきたい。
委員 事務局 委員	・ 資料④の 11 ページ、女性の就労者数は正規か、非正規か、両方か。 ・ 両方含まれている。 ・ 資料④の 3 ページ、4 ページの地域分布データは非常に興味深い。総合計画を策定するにあたり、地域ブロック別の計画を作る予定はあるのか。 ・ また、市内で地域ブロックはいくつあるのか。
事務局	・ 総合計画としては市全体の計画を策定するものと考えており、地域別計画の策定は予定していないが、伊丹市では地域自治組織の設立支援を推進しており、小学校区ごとの地域ビジョンの策定を支援していく。
委員 事務局 委員	・ 17 小学校区それぞれで地域ビジョンを策定するのか。 ・ その予定である。 ・ 工場が閉鎖された後の空き地に、マンションが盛んに建設されている。地域ごとの計画は無くとも、地域の特性や状況を把握しながら計画を進めた方が良好だろう。
事務局	・ 4 年前に策定した伊丹創生総合戦略において、今後人口減少を抑制し、にぎ

委員 事務局 会長 事務局 委員	わいを将来に残していくということを示した。その中で、猪名川の東側、国道 171 号線の南北、中心市街地、と地域ごとにブロックを分けて分析を行っているので、今回もその手法を採りたい。 ・地域ごとの状況は、分析、比較するという理解でよろしいか。 ・データ分析が可能だと考えている。 ・そのようなデータは審議会で提供していただけるのか。 ・ご意見を頂いたものに関しては、準備をしていきたい。 ・資料④の 8 ページの外国人人口について、新たな在留資格である「特定技能」の施行の開始を踏まえると、今後は国の内訳が大きく変わり、東南アジアの人が増えるのではないだろうか。 ・就労の観点でグラフを分けた方がいいのではないか。 ・平成 30 年度の状況はどうなっているのか。
事務局	・統計の状況については、確認する。 ・外国人労働者の数は今後変わってくるだろう。
委員 事務局	・住民登録の人口以外に、外国人就労者数を把握しているか。 ・就労者の統計としては市で把握していない。ただし 4 月以降、伊丹市への「特定技能」による技能実習生の転入はまだない。 ・市内に大きな会社もあり、介護現場でも受け入れている施設もあるとのことだが、全体では把握できていない。
委員	・第 6 次総合計画の計画期間中の、2022 年に市街化区域内の農地が自由に転用できることとなっている。転用後の土地利用は分からないが、人口の増減に関わってくる可能性があるだろう。農業委員会や農業政策課と一緒にそのような計画を立てる必要がある。
委員 事務局	・市長の挨拶で出てきた高度先端技術のデータについては何かあるか。 ・A I の活用や車の自動運転など、伊丹市で取り組まれていることはあるか。 ・全てを市で取組むことは難しいが、一昨年くらいから、地域の若手農業者に簡易な I o T 装置を使ってもらい、生産性を高める実証実験を行っている。 ・庁内では、今年度の当初予算で保育所の入所選考について A I の導入を検討している。 ・新庁舎建設に際してどのような A I の仕組みを導入できるか検証中だが、まだ技術開発中のものが多い。今後 2 年間ほど検討して、業務の効率化を図っていきたい。
委員 事務局	・今後、免許を返上した高齢者の移動手段について考えていく必要があるだろう。そのような議論は庁内で出ているか。 ・市バスへ自動運転が導入できるかについて検討しているが、具体的なシステムはまだ開発されていない。 ・市バスが走っているのは伊丹市の特徴であるため、コストを落としながらも市民サービスを維持していきたい。自動運転の仕組みについては今後の動きを注視していく。

委員	資料⑤について、最も満足度が低いものは「働きやすいまちづくり」となっているが、年代によって数値にバラつきがある。この点について市の見解をお聞きしたい。
事務局	設問にあたって、「働きやすいまちづくり」の補足説明として、雇用の創出や勤労者の福利厚生といった例を挙げ、働きやすいまちづくりについての満足度を５段階で回答していただいた。
委員	女性と 20 歳代は満足度が比較的高くなっているところに人を引っ張ってくる鍵があるように感じる。
委員	地方自治法が改正され、総合計画の策定が任意になったが、伊丹市の場合は条例によって総合計画を策定していると理解している。義務化が外れた理由は、計画行政の定着と総合計画の形骸化があるだろう。
事務局	- 総花的な計画を作るのであれば市役所で考えればよい。このような審議会を開催する以上は、それ相応の計画とする必要があるだろう。伊丹市の抱えている課題や行うべきことを明確にしていきたい。 - 計画の作り方で工夫しようとしている点があれば教えていただきたい。 - 地方自治法が改正された際には、市と議会でも総合計画の必要性について議論した。今回策定する総合計画は新しいまちづくり基本条例の規定に基づく初めての計画である。右肩上がりではない時代に策定する計画なので、限られた財源の中で優先順位を見極めながら策定していきたい。 - 人口ビジョンでは第 6 次総合計画期間中に人口が減少に転じることが予測されており、それに伴い税収の減少、地域の担い手の減少が懸念されている。 - 特に、公共施設の老朽化問題については、公共施設の再配置計画に基づき統廃合や機能移転を行い、床面積を減らし、維持管理コストや増改築コストを減らしていくコンパクトなまちづくりを目指すという考え方もある。 - このような状況においても、AI 技術の活用や生活の変化など、時代潮流に対応する 8 年間の道しるべとなる計画をつくりたい。
委員	- 現計画の第 5 次総合計画を策定する際にも、公共施設は量を増やすより質を上げていくという方針だった。6 次総計においてはこの方針を強化する可能性があると認識している。 - 財政的な視点で施設を一律に削減していくという総論的な考え方はあるが、市として公共施設についての方針はしっかりと打ち出していただき、審議会の場で何が本当に大事なのかということについて、しっかり議論する必要がある。
委員	- 資料⑤の市民・団体アンケートの内容は、施策ではなく目標を聞いているものが多い。例えば、地域コミュニティの問題はほとんどアンケートには出てきていないが、設問には「市民が主体のまちづくりの実現」に含まれており、施策には踏み込んでいない。 - 行政が行う施策の中で、市民協働をどのように位置づけるかを考えるべきではないか。

委員	・ 市民が主体のまちづくりを目標として掲げており、市民もまちづくり活動を行っている。市民にどれだけ行政が支援するのかも、この会議で扱うのか。
事務局	・ 市民との協働、参画については第4次総合計画ならびに第5次総合計画でも位置付けている。第6次総合計画でも外せないキーワードである。
	・ アンケート調査では、市民が分かりやすい設問とするため、「市民が主体のまちづくりの実現」の質問項目に地域の活動、自治体活動や市政への提案、市民会議、出前講座の受講などに積極的に参加しているかということについて、当てはまるかどうかを尋ねている。
事務局	・ 市の施策を38項目並べているだけという側面もあるが、実際には市の施策の中には協働のまちづくりや、地域コミュニティの評価など様々な施策があり、その下にぶら下がっている事業もある。
委員	・ この会議の中では、小さな一つ一つの事業ではなく、基本構想の中にその考え方を盛り込んでいくものと理解している。
委員	・ 今後災害が増えると、市民の役割も多くなるだろう。時代が変わっていく中で、具体的な施策レベルでなくても良いが、市民の関わり方を考える必要があるだろう。
委員	・ 市長の挨拶でもあったように、少子高齢化が進むと伊丹市は衰退していく。市民一人一人がどのようなことができるかを考えたい。
委員	・ 環境問題などを考えると、小さなことの積み重ねが、後で大きな問題になっていると思う。どんどん新しい技術や考えが入ってきて、昔からやってきたことを顧みなくなってしまうが、昔から当たり前に行っていることについて、改めてその価値を見直す作業も大切になってくると思う。
委員	・ 今後8年間の時代の進み方は今までと全く異なるだろう。例えば、外国人労働者の数やAIなどに関する今後の国や市の動きについて、今後、資料を作成する中で情報を盛り込んでいただきたい。
委員	・ ペットボトルやスーパーの袋を規制するのではなく、しっかりとルールを守ることが重要なのではないか。
	・ 海がきれいになりすぎて、魚がいなくなったため、阪神間の市町村では下水の浄化を調整する話が出ている。それに対して、伊丹市がどのような対応を取られているのかお聞きしたい。
事務局	・ 確認後、回答させていただく。
委員	・ 市民アンケートについて、設問項目を見せていただきたい。設問内容との相関関係なども含めて考察したい。
事務局	・ 次回、ご用意させていただく。
会長	・ 活発なご意見、ご質問をいただき感謝申し上げます。本日の議題はこれにて終了し、新しい総合計画へ取り入れるべき視点や考え方について意見があればお願いしたい。
委員	・ デジタル技術が今後進んでいくということだが、効率一辺倒ではなく、人と人がどうすべきかについて、盛り込んでいきたい。このことは地域コミュニ

委員	ティの問題でもあると考える。 ・近隣市との民生委員児童委員連合会の会長会議において、避難行動要支援者への対応について議題に上がった。 ・災害時の避難行動の支援を行うために、民生委員と地域住民が協力していく方法を考える必要がある。
委員	・資料③—1の5ページにあるように、伊丹市では昨年より幼児教育の充実が図られ、平成30年度から保育所等の4歳、5歳児の保育料無償化が実施された。 ・伊丹市では無償化が進められると同時に公立幼稚園と保育所の統廃合が進められた。無償化とのびのび遊べる環境を天秤にかけたときに、国の大きな方向性としては無償化となっているのだろうが、それが子どもにとって良いものだろうか。 ・限られた予算の中で政策を進めるという市の方向性は大前提としてあるかもしれないが、予算ありきではなく、何を充実すべきなのかしっかりと議論していただきたい。
委員	・公共施設の整備は高度経済成長期に集中しており、多くの施設が今より人口が少ないときに建設されている。 ・目標人口を少し下げれば、人口を増やすための取り組みをやめることができるのではないか。このような視点からも検討していただきたい。
会長	・活発な意見を出して頂き、感謝申し上げる。市の施策に対して様々な立場から課題意識、問題意識をお持ちだということを改めて認識した。 ・この審議会を通じて、より良い未来の伊丹市を築いていく計画を提案できればと思う。
委員 事務局 委員 事務局	・本日頂いた資料の中で疑問点が生じたら、どうすればよいか。 ・事務局までご連絡をいただきたい。 ・次回の会議まで待つ必要はないのか。 ・適宜ご連絡頂きたい。
事務局	8 その他 (今後の審議会日程・資料②について説明) 第2回伊丹市総合計画審議会：9月2日（月）15時～ (環境負荷低減に向けた取り組みの一環として、今後会議の際に飲料の提供をしない旨を連絡)
会長	・本日の会議はこれで終了する。次回についても、万障繰り合わせの上ご出席いただきたい。

以 上